

— 目 次 —

焼け跡あとに立つ虹

発刊にあたって

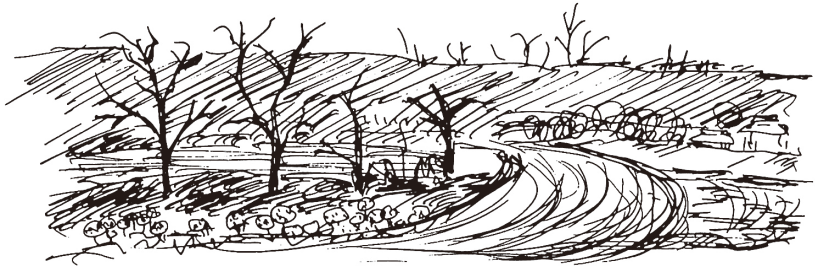
この本を読む子どもたちに

一、空くう襲しゅう

(一) 焼夷弾しょういだんの雨の中を

お城 <small>しろ</small> がもえた日	水野	11
電柱から血が	仲田	16
耳にひびくサイレンの音	福知	20
初めて名古屋に	辻村	25
空襲 <small>くうしゅう</small> があった日	本多	30
わずか十三才 <small>しゅうさい</small> の生涯 <small>しょうがい</small> か	山三	34
勤労報国隊員 <small>きんろうほうこくたいいん</small> として働く	青山	34
清洲基地 <small>きよすきち</small>	小林	40

ページ



思わず「ナムアミダブ」……………鬼頭忠男 46

炎の中をにげまどう……………関咲子 51

焼夷弾の雨の中を……………柴田隼三 54

(二) わが家が焼ける

昭和二十年三月十九日、……………尾関武夫 61

名古屋大空襲……………木下志摩男 67

さあ逃げるぞ、ついてこい……………本多義光 72

敵機来襲……………朝倉治子 76

豊橋の街が焼失したとき……………日高淳次 81

(三) 焼け跡に立つ虹

わが家が焼ける……………辻村秀夫 89

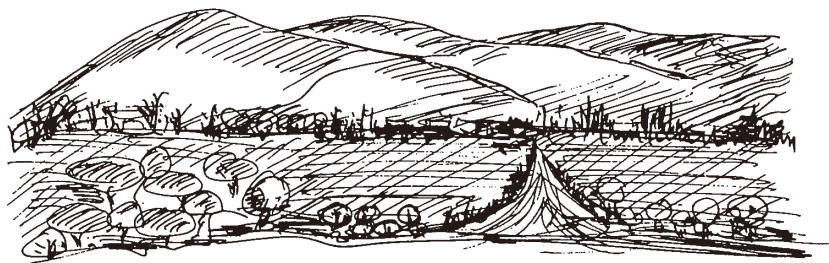
夜の遺体輸送……………辻村秀夫 89

名古屋大空襲……………齊藤諒二 92

A子への手紙……………山田悦子 98

B29が落ちてきた……………湯浅四郎 102

焼け跡に立つ虹……………荒川文子 106



二、生活

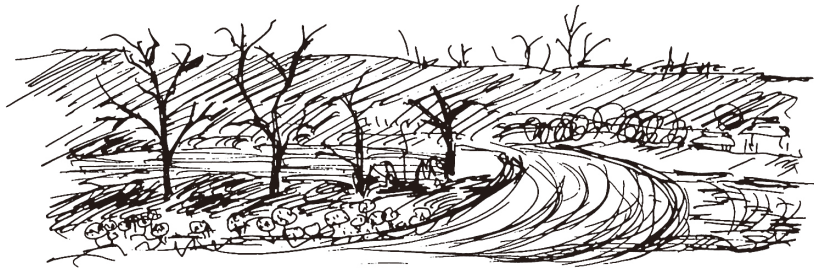
(一) 戦時下の暮らし

おばあちゃんの戦争体験……………	伊藤久仁	115
銃後の苦しかった生活……………	鬼頭栄一	118
つらい青春時代……………	藤川文	125
戦争よもやま話……………	末田敦子	131
苦しく長かったあのころ……………	天野郁子	140
戦争と小学生時代……………	水野一彦	145
戦時下の暮らし……………	鶴飼信雄	151

(二) おなががすいて

戦争から帰ったお父さん……………	太田馨	157
グローブがほしかった……………	中村泰夫	162
戦場に兄を見送る……………	寺沢佳香	165
勤労働員の思い出……………	天野一義	171
おなががすいて……………	柳孝尚	176

(三) 学童疎開



私の小学生時代……………	伊東昭夫	179
私の戦争体験……………	神谷忍	185
くり返してはならない戦争……………	野田曉	187
写真の父は年をとらない……………	今井公彦	191
学童疎開……………	水野弘	197
三、出兵・引き揚げ		
朝鮮出兵……………	田口章	207
敗戦・混乱、そして引き揚げ……………	北原豊昭	213
戦争と私の仕事……………	名倉栄一	219
佐々木君の父はいまいずこ……………	山田康二	225
愛知県下の主な空襲		
あとがき		

表紙絵・山田哲郎